

令和5年度 第1回 清瀬市男女共同参画センター運営委員会 議事録

日時:令和5年8月3日(木) 午前 10 時～12 時

会場:男女共同参画センター 会議室 1・2

委員出席:8名

福田委員長、高宮副委員長、木村委員、荒木委員、松山委員、尾崎委員、
植田委員、渡辺委員

委員欠席:3名

鎌田委員、牧野委員、矢澤委員

事務局:原口センター長、佐藤係長、小林専門員

新たな委員の自己紹介

4月より着任した尾崎委員・植田委員による自己紹介。

議題

【令和5年度実施事業及び8月以降の事業予定について報告】

事務局より内容説明を行った。事業報告参照。

委員

男女共同参画センターが企画部から地域振興部に異動した理由は。

事務局

男女共同参画センターの事業を行っていくには市民協働の視点が必要であり、地域振興部はその市民協働を中心に推進していく組織である。その為、市民協働を組織として進めていく枠組みとして、地域振興部に移している。

委員

男女平等推進条例を重視するというよりは、アイレックという場所を中心として市民の人が活動することを重視しているということか。

事務局

条例も重視している。その条例を絵に描いた餅にしないうためにも、より動きやすい体制作りとして今回の組織改正に至った。また、企画部はどちらかというと庁内に向けた施策が中心であり、条例については市民啓発が必要になる。市の内部での男女平等施策は当然のことである。今後はより市民への啓発を考え新たに地域振興部ができ、その中に男女共同参画センターが入ったという位置づけである。

委員

7月2日及び15日に実施した男女共同参画週間記念講座それぞれの年齢層の違いや知るきっかけの差があったのか教えてほしい。

事務局

7月2日の講座については各学校の学童クラブや講師の教え子等を通して知ってもらった。年齢層は40代が一番多く、60代以上が多いといった今までの講座とは違った傾向であった。7月15日は告知に少し出遅れたところがあった。年齢層の傾向としては、今までよりは少し若返ったと捉えている。

委員

学習・交流スペースが話しづらいため、もう少し交流できることを前面に出した方がよいのではないか。

事務局

学習・交流スペースは、もちろん交流の場でもあるため、その旨を掲示している。また、現状は20席あるうち、夜間は学生で埋まることもある。今後は交流の場という点について、もう少し工夫して対応していく。

委員

学習・交流スペースについては、ニーズと狙いが合っていないのではないか。

事務局

学習する場として利用されることが多いため、事務局としても課題として捉えており、試みとして交流専用のテーブルを作ることも検討している。また、学生が少ない時間帯等、交流の場として使用しやすい時間帯のアナウンスを行っていくことも検討している。

委員

アイレックまつりの講師は決まっているか。

事務局

決定している。今年は2名の講師をお呼びする。ひとりは落語家の林家つる子さん。林家さんは、「古典落語の女たち 今を生きる林家つる子の挑戦」と題し、講演していただく。もうひとりは、法政大学前総長の田中優子さん。田中さんは、「平和とジェンダー」というタイトルでご講演いただく。サブタイトルについては実行委員会で検討中である。

委員

予算について。ひきこもり女性支援事業の予算が0円になった理由は。

事務局

ひきこもり女性支援事業は、生きづらさを感じる女性の居場所づくりを多摩島しょ連携事業として複数の市区が連携して行っている。昨年は清瀬市が幹事市であったため、委託業者に対し委託料を支払った経緯がある。今年度は国立市が幹事市であるため、委託業者へは国立市が支払うことになる。

連携する意味合いとしては、自分の住んでいる市区では参加しづらい当事者のことを考慮し、他市区へ行くことで居場所を確保する狙いがある。

委員長

子どもたちへの啓発も行っていくべきだと考えている。その際は、庁内で教育委員会との連携を取ってほしい。

また、運営委員会に諮っていく事柄については、意見交換を行っていくことが望ましいと考えている。

アイレックまつりの講師については、ジェンターの視点をしっかり持った方を重視すべきだと考えている。

事務局

アイレックまつりの講師については、実行委員会で議論し決定する。講師選定に関しての運営委員会側の意見として実行委員会に伝える。

市で検討していることについては、運営委員会にも伝えていく必要があると考えている。

委員

発信の仕方については、どのようにしているのかを知りたい。

事務局

発信方法については、市報、ホームページ、Facebook や Instagram 等、様々な媒体を使用しながら工夫して取り組んでいる。しかしながら、当日の参加者の人に聞くと市報が情報源として一番有力であるため、市報掲載については、文章だけではなく画像を入れたりすることで少しでも目立つように工夫している。

教育委員会も決して敷居が高いわけではなく、考え方の相違があれば、お互いに話し合うことでより良くしていけると考えている。毎年5年生にガイドブックを配布しており、昨年は新装版を作成した。その際、学校側の協力は大きく、児童へのアンケート調査にも協力いただき実現できたことである。

委員

推進条例のガイドブックをどのように活用しているかについては、把握しているか。

事務局

把握している最中だが、道徳や保健の時間で行ったことは聞いている。

委員

ガイドブックの活用として何年か前、アイレックまつりで市内小学生が作った人権かるたがあった。それを教育委員会と協力した施策ができればよいのではないか。

事務局

行わなくなった経緯は分からないが、夏休みの宿題で人権かるたを作り、それを展示したことは聞いている。

委員

今後のきっかけとしても、また行っていければよい。

事務局

今まで行っていたことで良いことについては、例え形が変わったとしても新たな取り組みとして創出していければと考えている。

委員長

サポーター全体会議でのことについてお話いただきたい。

事務局

施設運営をより良くするための会議体は運営委員会だと考えている。その中で、サポーターや登録団体からも選出して参加してもらっている。かつてはサポーターや登録団体の全体会議はあったが、現在は意見を集約する場が無かった。

そこで、6月27日にサポーター全体会議を行い、課題等を運営委員会に上げていくシステムを構築してはどうかという話があった。今後は運営委員会が行われる前に開催し、意見を集約して運営委員会に報告できればと考えている。

その為、運営委員会に諮りたいのは、このようなシステムについて了承いただけるかどうか。

委員長

特段みなさんからの意見は無いことを確認した。

事務局

了承していただいたとして、今後は運営委員会が開催される1か月前くらいにはサポーター全体会議を行っていく。また、ゆくゆくはサポーターや登録団体の方から音頭を取ってもらい、事務局が中心ではなく取りまとめてもらえるようにしていく。そこで出た意見については、サポーターや登録団体の代表として運営委員会に出ている人から伝えてもらう形が望ましいと考えている。

今回の会議で出た内容としては、資料のとおりである。一つ目は人権に焦点を当てたイベント等を実施して欲しいということである。事務局としては様々な場面で情報発信を行い、講座等も開催していると考えている。今後はさらに活発に行えるように取り組んでいく。

なお、人権に焦点を当てた講座については、事務局もこの時期にこの講座をと考えながら進めている。しかしながら、もっとこの部分こういったことに力を入れた方が良い等、具体的なことがあれば聞かせていただきたい。

二つ目は、市が考えていることについては、皆さんと協議しながら進めていきたいと考えている。

三つ目は、2年後にアイレックが30周年を迎えるため、30周年事業について運営委員会でも意識しながら進めてほしいという声があった。

委員長

先ほど委員からもあった、人権かるたの復活は盛り込んで欲しい。

事務局

人権かるたについては記録でしかわかっていないが、主にかかわっていただいた方は存じているため、経過等を含め確認していく。

委員

子どもの権利条約とは別なのか。

事務局

当時は別の場所が研究していたときいている。センターは、広い人権の中で男女平等を中心とした事業を主たるものと考えている。

委員

LGBTQ はこのセンターとしての業務に入るのか。

事務局

条例の中にも多様性という言葉が入っている。その為、LGBTQ の施策は男女共

同参画センターが今後も行っていく。ここで話し合ったことは、8月29日のサポーター全体会議で伝えさせてもらおう。

委員長

ことりばの移転等、重要なことはそのプロセスをもっと伝えてほしい。

委員

商工会が移ってくるため、ことりばも移すことになるといった報告があったのは前回の会議だったか。

事務局

前回の会議で伝えている。

委員

そうすると、伝えてもらっているため、諮っていることは諮っていると考えることもできる。

委員長

諮ってはいるが、中にはもう少し運営委員会の場でも煮詰めてほしいと考えている人もいるのではないか。

事務局

まずは、ここの場所のことでもあるため、運営委員会に加えて、サポーターや登録団体の方にも決定する前にそういう動きがあることを伝えながら進めるべきではないかということであった。

こちらとしては運営委員会にも報告して進めていると認識しているが、今後は更に皆さんにもお知らせしつつご意見をもらいながら進めていきたい。

委員長

要望や意見は募った方が良いと思う。また、プロセスも大切にされた方が良いと考えている。また、今後はサポーター全体会議もあるため、意見を確認しながら進めていくことにもなり、その仕組みは大切だと思う。

30周年に向けての検討については、今後様々な意見を出し合いながら培っていくものと考えてよいか。

事務局

30周年については、アイレックまつり実行委員会も30回目に向けての議論を開始

したところである。そのため、次回の会議までにこういうことができるのではといった意見を募ればよいと考えている。

委員長

次回の会議までに皆さんもそれぞれに何ができるのかについて考えていただければと思う。